

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ワンハート		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 31日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 31日		～ 2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境を分かりやすく整えたり、スケジュールを見て分かる形で提示することで、お子さまが安心して過ごしやすい環境づくりを行っています。 また、気持ちのやり取りや情報の伝達を大切に、お子さまにとって分かりやすい方法で伝え合えるよう工夫しています。	・お子さまが自分で選び、自分の気持ちで決めることを大切にしました支援を行っています。 ・スケジュールボードや余暇活動の選択ボードを活用し、見て分かる形で提示することで、自分で選ぶ力につなげています。 ・絵カードやジェスチャーなども取り入れ、言葉にならない思いや気持ちにも気づけるよう工夫しています。 ・スケジュールの目的や使い方については、事前に保護者の方にも丁寧にお伝えし、ご家庭や園でも活用しやすいよう共有しています。	・現在のスケジュールをもとに、お子さま一人ひとりの年齢や特性に合わせた内容へ見直しを行い、より定着しやすい形にしています。 ・視覚支援や絵カードなど、お子さまに合った気持ちの伝え方をさらに充実させていきます。 ・職員同士で支援方法の共有や振り返りを行い、より良い関わりにつなげていきます。 ・保護者の方や関係機関との連携を大切に、お子さまが安心して自分の気持ちを表現できる環境づくりを進めていきます。
2	就学に向けて、主に年長のお子さまを対象に、無理なく楽しく取り組めるプログラムを提供しています。 おやつ作りを通した食育や、現役サッカー選手によるサッカー教室・運動遊びなど、多彩な活動を取り入れ、楽しみながら心と体の成長を育む環境づくりを大切にしています。	・お子さま一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、それぞれのペースを大切にしています。 ・「できた!」という成功体験を積み重ねられるよう関わり方を工夫しています。 ・安心して過ごせる環境づくりを心がけ、楽しく通所できることを大切にしています。	・お子さまの興味や関心に合わせた活動内容の工夫を行い、より主体的に参加できるよう取り組んでいます。 ・保護者の方との連携を大切にしながら、ご家庭での様子も踏まえた支援につなげています。 ・職員間での情報共有や振り返りを行い、より良い支援につなげていきます。
3	必要に応じて園訪問へ行ったり、送迎時に園の先生と情報共有を行うなど、お子さまの様子を関係機関と丁寧に共有しています。	・園での様子と事業所での様子の両方を大切にしながら、お子さまの理解を深めるよう心がけています。 ・送迎時や園訪問の機会を活用し、先生方とこまめに情報交換を行っています。 ・お子さまが安心して過ごせるよう、関係機関との連携を大切にしています。	・今後も園との連携を継続し、お子さまの様子や成長について丁寧に共有していきます。 ・必要に応じて関わり方や支援方法について相談し合い、よりよい支援につなげていきます。 ・関係機関とのつながりを深め、お子さまが安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容に応じてお部屋を分けたり、マットなどで空間を区切る工夫をしていますが、人数や活動によっては少し狭く感じる場合があります。	・限られたスペースの中でも、お子さまたちが分かりやすく、動きやすいように工夫していますが、利用人数が多い日には職員の人数も増え、全体的に窮屈を感じる場合があります。	・活動内容や人数に応じてスペースの使い方を見直し、お子さまが安心して過ごせる環境づくりを工夫していきます。 ・少人数での活動やグループ分けなどを取り入れながら、ゆとりのある関わりができるよう努めていきます。 ・安全面にも配慮しながら、より過ごしやすい空間づくりを引き続き検討していきます。
2	保護者の方同士が交流できる機会や、きょうだい同士が関わる場を、これまで十分に設けることができていません。	・これまで、保護者会や父母の会などの交流の機会を十分に実施できていませんでした。 ・お子さま一人ひとりの特性がさまざまであることに加え、就労されている保護者の方も多く、時間の調整が難しい状況があります。 ・事業所として、交流の場の企画やご案内が十分ではなかった面もあります。	・今後は、保護者の方のご都合やご希望を踏まえながら、無理のない形で参加できる交流の機会を検討していきます。 ・事業所からのご案内や情報発信を工夫し、保護者の方同士やきょうだい同士がつながるきっかけづくりを進めていきます。 ・できる範囲から少しずつ、安心して参加できる場を整えていきます。
3	現在、保育所や認定こども園、幼稚園などのお子さまや、地域のお子さまと交流する機会が十分に設けられていません。	・これまで、地域との交流の機会づくりに十分に取り組むことができていませんでした。 ・安全面や受け入れ体制の調整などが必要であり、実施に向けた準備が整っていない状況があります。	・今後は、地域のお子さまたちとの交流の場づくりについて検討を進めていきます。 ・まずは取り組みやすいところから、法人内の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスとの交流機会を増やしていきます。 ・段階的に交流の幅を広げ、お子さま同士が関わり合える機会を大切にしていきます。